

令和7年度 第6回「プロジェクトマネジメント研修カリキュラム開発分科会」報告

1 日時 令和7年11月25日(火) 15:00~17:00

2 場所 産業技術短期大学校 西館棟(西キャンパス) 特別教室5

3 分科会委員

(座長) 筒井 潔	アジアパシフィックコーポレーション(株)
丹羽 良和	日産自動車(株)
高橋 哲也	ポリテクセンター関東
土屋 春香	日本ディクス(株)
斉藤 光弘	神奈川県立産業技術総合研究所
加藤 勝彦	(株)キャリアサポート湘南
菅原 征江	(株)クボテック
神馬香代子	(株)アイ・ディー・エクス
旭 馨	神奈川大学
伊藤千珠代	オフィス マウミ
小山 宏	西部総合職業技術校
田村 守	横浜経理専門学校

人材育成支援センター(事務局)

田中 暁	人材育成支援センター所長
酒井 博之	〃 職業訓練推進員
津久井二郎	〃 主査
植村 道忠	〃 人材育成コーディネータ

*分科会委員の出席

出席者：筒井座長、丹羽委員、旭委員、神馬委員、小山委員、斉藤委員、伊藤委員、
(人材育成支援センター 田中、津久井、酒井、植村)

4 内容

ア 田中所長より、分科会最終回につき座長、委員への感謝挨拶

イ 資料について

【研修プログラムの基本】

【ワークシート】自己評価チェックシート

【ケーススタディ】地域創生と事業創生：次世代都市の構想

【ケーススタディ】原子力ベンチャーのコンサル仕事の話

【ケーススタディ】レジリエントなスマートシティ創生計画(空モビ)

【ケーススタディ】AI×地域特性による新規産業創生プロジェクト

【ケーススタディ】AIデータ監査

【参考】リスクマネジメントからレジリエンスマネジメントへ

【参考】 エネルギー産業のDXとはどういうことか

【参考】 アジャイル開発とウォーターフォール開発の概要

【参考】 アジリティハック (Ajility Hack)

【参考】 ロバート・ソロー「成長理論」コラム

【参考】 「重職者心得」

・前回からケーススタディとしてAIデータ監査を追加しています。内容は「AI／データ監査のルールメイキングと組織変革で組織の成長を主導するシンコンサルティングファーム事業構想」となります。

ウ 本日は最終回ということもあり、これまで話してきた内容を「来たるデータ資本主義の姿と其中で生き残りのための事業計画」と題して全体の流れの中で振り返ってみたいと思います。

1. インターネットの時代からAIの時代へ

① 3つのキーワードとデジタル経済の特質

- ・デジタルデータ：あらゆる情報がデジタルデータ化→ビッグデータ+AIにより、データが価値創出の源泉に
- ・限界費用：あらゆる情報のやりとりのコストが低廉化→時間・場所の制約を超越して様々な経済活動が可能に
- ・取引費用：あらゆる経済活動のコスト構造を変革→経済活動の主体（企業・人）間の関係再構築が必然に

② AIの時代になって何が起こるのか？

- ・経済学の時代から社会学の時代に
- ・データが、新しいデータを作り出す
- ・インターネット時代の「分析」から、AI時代は「秩序形成」へ

③ 日本が進むべき道について

- ・西洋哲学と東洋哲学の対立：西洋は「物」を対象とした論理であり、東洋は「心」を対象とする論理である
- ・サイバー地政学の構築の試みの必要性：地理的環境や位置関係が国家間の政治・外交に与える影響を考察するのが地政学だとすると、サイバー空間の覇権をめぐる国際標準化戦争が起こっていることを考えるとサイバー地政学という学問があってもよいのではないか

④ AIは何ができるか（AIと人の共生：Humanity2.0）

- ・人の行動予測、対応策の策定、人の行動の励起
- ・対人、対社会の関係から創発される人の行動変容と社会の変化：Humanity2.0

⑤ デジタル経済圏とリアル経済（データ資本主義）

- ・サイバー空間のデータの変化をもたらすものがリアル空間の人・モノ・金の動きである
- ・逆にサイバー空間でルールを作ることによって、リアル空間の人・モノ・金の動きを誘発することが出来る

2. 脱炭素社会のためのファイナンス

① トランジションファイナンス

- ・国内外でトランジション・ボンド及びローンの投資事例は緒に就いたばかり
- ・GHG多排出産業の低炭素化実現のためには、着実な省エネ・エネルギー転換等のトランジション技術の社会実装への取り組みが重要であり、世界全体のGHG排出量の削減に効果的

② トランジション技術と非連続イノベーション技術

- ・Brown Economy（効率の悪い自動車や工場）→トランジション段階（ハイブリット車や高効率発

電) →脱炭素社会(電気自動車、再エネ・カーボンリサイクル)

経済産業省「クライメイト・イノベーション・ファイナンス戦略2020」(2020年9月16日)

3. プロジェクト推進体制(ザロンドントライアングル)

- ① 「非営利団体」の設立と運営
- ② 「営利団体」の設立と営利活動
- ③ ファイナンスと資金運用のための「財団」法人
 - ・①～③のトライアングルの形成による機能的なプロジェクト運用を目指す
 - ・これを一般企業に置き換えると、「財団」：取締役会orトップマネジメント、「非営利体」：研究所、企画部、「営利団体」：事業部となる

4. エネルギーDXにおける属性証明

- ① 機能と取引
 - ・ブックアンドクレーム方式：認証製品の出生証明自体をオンラインで電子取引する仕組み
 - ・生産と証書の発行：製品の属性情報を登録(ブック)、対応する証書が取引可能な製品の由来を証明
 - ・物理的な製品の移動を伴わずに、属性情報を転々売買することが出来る
 - ・証書の最終所有者は、償却により証書の流通・利用を停止し、証書に基づく属性情報の使用を主張(クレーム)できる
 - ・このシステムが持続可能な製品の生産と消費の透明性が確保され、サプライチェーン全体の追跡(トレーサビリティ)が可能となる
- ② 属性証明例(水素等製造)
 - ・I-TRACK(E)：多数の工程の全体プロセス(水の調達、水の前処理、水の電界、水素精製、水素加圧、輸送、貯蔵)を登記、基本工程データを東麓、CO2規制に関する国の規制・ISO適合などの最終製品に添付するラベルを発行

5. ビジネス案：ローカルイシュアの設立・運営

- ① I-TRACKの組織構造：国際トラッキング規格財団(規格提供、運用保証)
- ② 関連運営組織を認証：規則制定と信頼性の高い運用を保証
- ③ 国毎の発行主体を認証：規格の規則に従い、要件を満たしていることを認証
- ④ レジストリ運営者：必要な記録・技術インフラを維持・管理
- ⑤ プラットフォーム運営者：取引、市場、その他の促進インフラを提供
 - ・ローカルイシュアは儲かるのか？：モノ(例えば水素)と同時に動くデータを発行する毎に手数料を徴収するので、モノが動けば必ず儲かる

6. AI監査：アルゴリズムの監査、公平な配分のパイロット、透明性の構築

- ① 未来：倫理的イノベーションでリードする
 - ・次の10年は、公平性指標、プライバシー、グローバルコンプライアンスを要求
- ② インフォームド・コンセント：AIを活用した介入を行う際に、従業員にすべての関連情報を提供する
- ③ 利害の一致：企業と従業員双方の目標、リスク、利益を明示し、足並みを揃える
- ④ 参加への同意と容易な離脱：強制や強要なしに、AIを活用したプログラムへの参加と離脱が容易にできる
- ⑤ 会話の透明性：AIの会話エージェントの使用に際して、従業員を説得する目的がある場合、正式に明らかにしなくてはならない
- ⑥ 偏りのない説明可能なAI：従業員に対するAIを活用した介入において、AIシステムが決定

や行動について透明性のある説明を提供する

- ⑦ AI研修と能力開発
- ⑧ 健康と幸福
- ⑨ データ収集
- ⑩ データの共有
- ⑪ プライバシーとセキュリティ
- ⑫ 第三者による情報開示
- ⑬ コミュニケーション
- ⑭ 法規制の遵守

7. ソリューション案：AI監査関連事業の立ち上げ（日本に残されたチャンス：オントロジー辞書事業の提案）

- ・オントロジー辞書の国際標準 IEC CDDは日本が主導
- ・ISO、IECの最上位委員会決定により、IEC CDDを中心に進める
- ・日本はカウンターとして、OpenCDDプロジェクトを提案、しかし予算の目途立たず停滞
- ・日本はデジタル経済圏の地図に無い島になり、多国に莫大な税金を払うことになる
- ・逆にチャンスを利用すれば、デジタル経済圏の巨大な新市場を手に入れることが出来る
- ・日本がオントロジー辞書マーケットを開いて利益を獲得し、データで日本企業のプレゼンスを取り戻す

エ プロジェクトマネジメント研修の試行講座「プロジェクト成功の秘訣！」の位置づけ

- ※ 受講者が、いかに講師の話を自分のイメージに落とし込めるかが重要

以上